

の封賃を相添へて、けふなん返し奉る。○註ふりにし罪をゆるされなば、かの洪恩を忘るゝときなく、死にかへるまで幸ひならん、利銀はなほのちくく償ひまゐらすべきになん、あなかしこ
とばかりに、さすがに氏名をしるさねども、あるじはさらなり、小もの等まで、この文に就きその
意を得て、感嘆せぬはなかりけり、

〔矢部駿州界奉行事書〕矢部駿河守定謙のぬし、堺州州の奉行になされしは、いぬる天保三とせばか
りのこと成けり、其所に廣岡爲次といへる醫師あり、かれはもとく家とみ榮へて、身のざへ、ぬ
ひども有者にぞなん、今の爲次は養ひ子にて、其父實の子一人もたりけるを、深く世にもかくし
て知らせず、いはけなきほどに、堺の商びとの子になしたりしが、はふれたゞよひて、よるせなき
身となれり、そこが爲にも弟ならずや、いかにもはからひうしろみてよと、打かたらふに、醫師つ
れなければ、こなたはなをたちもやらで、いひあらがひて事ゆかず、遂に奉行の政所にこそうた
へ出、二人ともに、六十に近き齡なれば、別に明らむべきやうもあらず、されど舊き者、むかしのさ
さやきごとにも、かの子の有さまさながら昔の父の面影して、ことわざに爪を二ツにまたらん
とは、これがことにやなど、いひあへるを、奉行もさせる證なければ、せんすべなし、この訴は爲次
がことはりにこそといはれて、いとまたり顔にぬかづきて、たゞむとするを、駿河守ことばをあ
らため、やよいかに爲次は、やまともろこしのふみにもわたり、かつ詩歌のうへも、うとからすと
か聞おけり、されば物の心をも能く得たらん、今一ことものはん、むかしの歌に、
なき名ぞと人にはいひて有ぬべし、心とはいひかゞこたへむ、これ今しも戀のうたながら、
そのことはりは、よろづのうへにかよひなん、奉行がとひにこたへて、ことはりゆゝしげにいひ
ぬれど、おのが心のおのれにとはゞ、そもく何とかいふべき、こたへこそきかまほしけれと、い
ひかけられて、いかゞおもひけん、時うつる迄ものいはず、さしうつむきてあるに、うへにもとも